





# 道徳授業 Q&A

## Q1

【4学年】

【内容項目】  
勤労、公共の精神  
【教材名】  
みかん出し  
(光文書院)



相談者



沖縄県名護市立  
東江小学校  
あさと ちか  
安里 愛 先生

内容：板書の工夫

主人公の仕事をする前と後の心を対比させ、その変容を構造的に整理していきたいのですが、子どもから予想していなかった言葉が出てくると、どこに書いてよいか困ってしまいます。結果、矢印をいろんなところから描いてしまうなど、うまく構造化ができませんでした。もとの心の表し方も合わせて、構造的な板書のコツを教えてください。



## A1

ポイント  
アドバイス



ここはナイス！

安里先生が、主人公の初めと後の心を対比させたところがナイスです。

この教材は、主人公が仕事に対する意識を自ら変容させているところにポイントがあります。ですから、そこをはずさずに子どもたちに問うことで、働く意味、価値について子どもたち自身が新たな気づきを得ることができそうです。

ランクアップアドバイス

子どもたちの発言を板書に反映させるときには、「子どもたちと板書をつくる」という発想が重要です。

その際のポイントは、「子どもに聴く」ことです。板書計画には入れることのできないイレギュラーな展開ですから、最初は戸惑うのも無理はありませんが、ここが正念場。とことん子どもにつき合い、「どこに書けばいいかな？」と子どもに尋ねるくらいの覚悟でいきましょう。

## Q2

【5学年】

【内容項目】  
節度、節制  
【教材名】  
ひみつの  
トレーニング  
(光文書院)



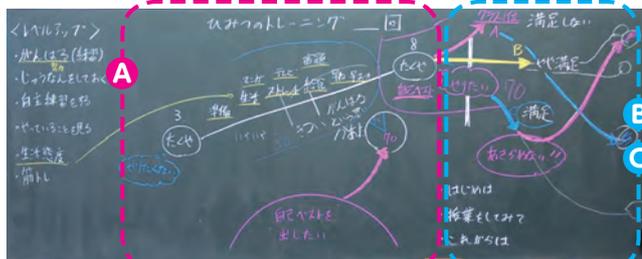
相談者



神奈川県横須賀市立  
神明小学校  
根本 哲弥 先生

内容：比較の工夫

初めと終わりの主人公のレベルを数値化させ、その理由を問うことにより、「A レベルがあがった理由を考えやすくする」、「B 終わりが10(ゴール)ではなく、その続きがあることに気づかせる」ことを意図しました。これからの主人公について「C 3本の線を示し、それぞれの違いについて考えさせる」と、さらに続きを考え、満足しない、あきらめない、それらを生む、自己ベストを出したいと願う心と理解を深められましたが、内容項目からは離れてしまいました。どうすればよかったですでしょうか。



## A2

ポイント  
アドバイス



ここはナイス！

主人公の努力ラインを図式化し、ベクトルで表したことで、教材に書いていない「その先」までを子どもたちが考え始めたところはナイスです。

教材を教えるのではなく、教材をきっかけに、自ら問いをもって考えようとする子どもたちの意識が大切にされた、主体的・対話的な深い学びになっています。

わたしならこうする！

主人公と、「由紀さん」のトレーニングの違いを比較させます。

同じトレーニングメニューをこなしているにもかかわらず、結果が違ってくる原因は何なのか。トレーニングを支えるものは何なのかを考えさせることにより、基本的な生活習慣や身体づくりという、節度、節制の内容に迫ることができると考えます。